

2021年度第3四半期決算説明資料

2022年2月7日

皆さんこんにちは。

それでは、2021年度第3四半期の決算実績についてご説明申し上げます。

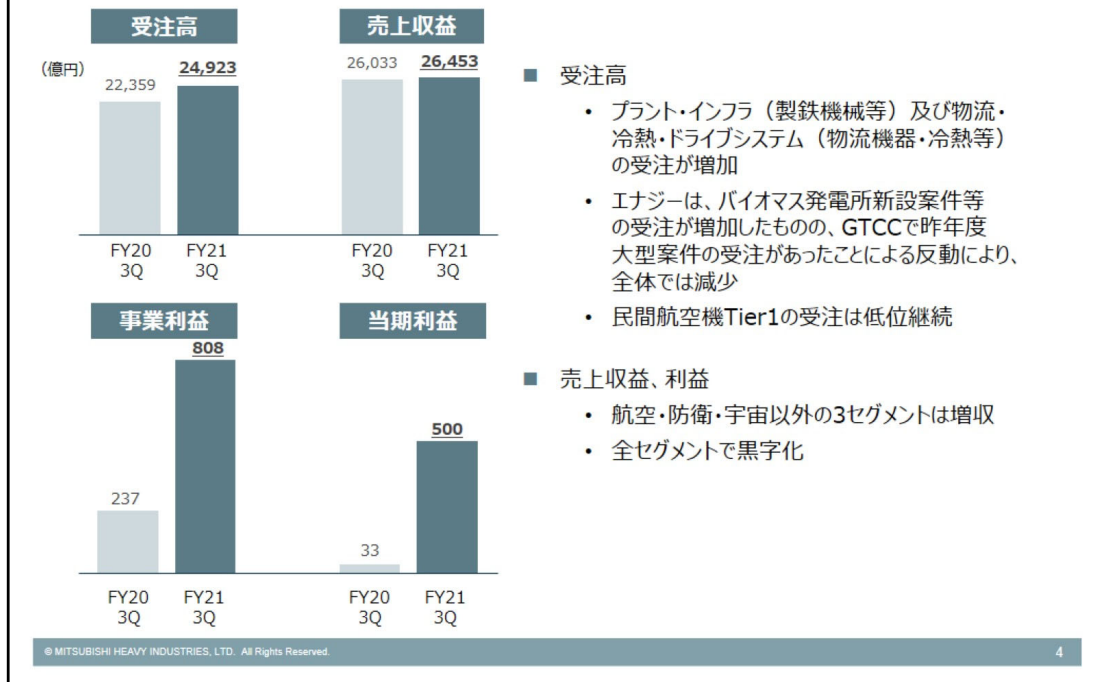
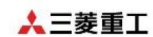
I. 2021年度第3四半期決算実績

- 連結経営成績サマリー 4
- 連結財政状態 6
- キャッシュ・フロー 8
- セグメント情報 9-12
(受注高・受注残高/売上収益/事業利益)
- 事業利益増減分析 13
- コロナ影響を受けた主な事業の現況 14
- 第3四半期決算の総括 15

II. 2021年度業績見通し 17-18**III. 補足資料** 20-25

I . 2021年度第3四半期決算実績

連結経営成績サマリー



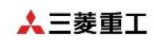
2021年第3四半期決算実績の全体概要を説明します。
スライド4ページと併せて、5ページの数表もご参照ください。

受注高は、前年同期から10%強増加し、2兆4,923億円となりました。第1、第2四半期に引き続き、プラント・インフラと、中量産品事業が大きく伸ばしています。

特に、製鉄機械が牽引するプラント・インフラの受注高（6,391億円）は、第3四半期の時点で、昨年度の通期1年間の受注高（5,752億円）を超えました。売上および各段階の利益は、前年同期比で増収増益となり、昨年度からの回復傾向が現れています。

事業利益は、4セグメントとも黒字になりました。

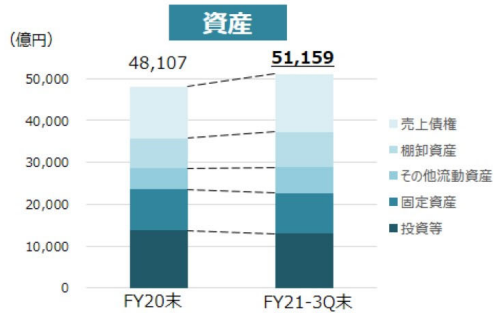
連結経営成績サマリー



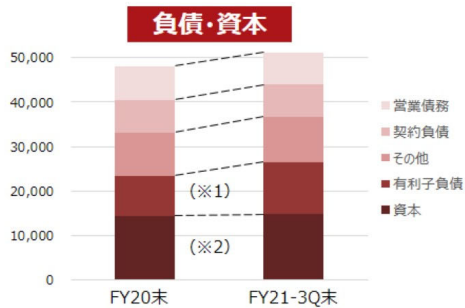
(億円)

	2020年度3Q (利益率)		2021年度3Q (利益率)		増減 (増減率)	
受注高	22,359		24,923		+2,563	(+11.5%)
売上収益	26,033		26,453		+419	(+1.6%)
事業利益	(0.9%)	237	(3.1%)	808	+571	(+240.7%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	(0.1%)	33	(1.9%)	500	+467	(+1,414.7%)
EBITDA	(5.0%)	1,292	(6.8%)	1,792	+500	(+38.7%)
フリーCF	△6,390		△1,481		+4,909	-

連結財政状態



- 総資産は前年度末から3,052億円増加
- 主な要因は運転資金の期中変動



	FY20末	FY21-3Q末	増減
有利子負債残高 (億円)	9,056	11,712	+2,655
自己資本比率	28.4%	27.3%	△1.1pt
D/ELシオ	0.63	0.79	+0.16

主な内訳 (億円)
 (※1) CP+2,570
 (※2) 当期利益+500、配当△403

© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

6

スライド6ページと7ページでは、バランスシートの状況について説明します。

総資産は、運転資金の増加等により前年度末から増加していますが、これは通常の当社の資金の動きであり、想定どおりで推移しています。

有利子負債については前年度末から増加していますが、2020年度第3四半期末は、1兆2,218億円でしたので、その時点と比較すると500億円ほど減っています。

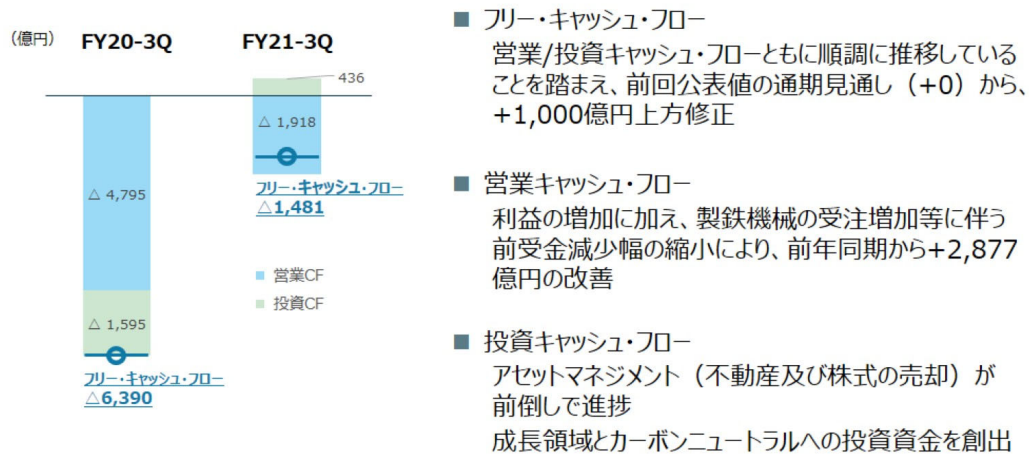
その他の各指標の水準についても、年度首の想定範囲内です。

連結財政状態



	(億円)		
	FY20末	FY21-3Q末	増減
売上債権（営業債権、契約資産）	12,341	13,848	+1,507
棚卸資産	7,134	8,445	+1,310
その他流動資産	5,070	6,129	+1,059
（現金及び現金同等物）	(2,454)	(3,582)	(+1,128)
固定資産	9,789	9,777	△11
投資等	13,771	12,958	△813
資産合計	48,107	51,159	+3,052
営業債務	7,637	7,211	△426
契約負債	7,318	7,271	△47
その他	9,701	10,186	+484
有利子負債	9,056	11,712	+2,655
資本	14,393	14,778	+384
（うち親会社の所有者に帰属する持分）	(13,663)	(13,959)	(+296)
負債・資本合計	48,107	51,159	+3,052

キャッシュ・フロー



© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

8

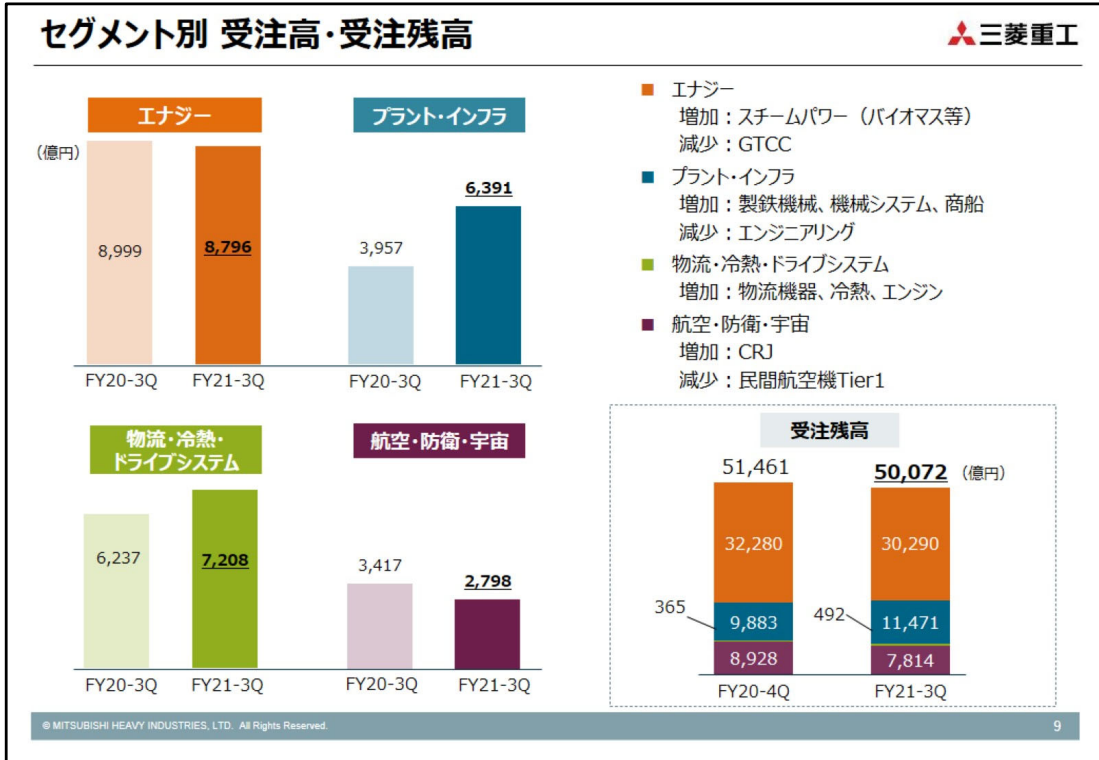
スライド8ページでは、キャッシュ・フローの状況について説明します。

営業キャッシュ・フローについては、前年同期対比で2,877億円の改善となりました。改善した理由の一つとして、キャッシュ・フロー利益が増加したことが挙げられます。また、契約負債/前受金の減少幅が小さく抑えられたことが二つ目の理由として挙げられます。

補足しますと、当初は相当額の契約負債/前受金の減少を想定していましたが、製鉄機械の受注増加等により前受金が獲得できたことから、減少幅を小さく抑えることができました。これらの理由により、営業キャッシュ・フローは年度比の想定よりも改善傾向に推移しています。

また、投資キャッシュ・フローについても、不動産に加えて政策保有株式の売却を着実に進めていることなどから、成長領域への投資を進めながらも、年度比の想定よりも改善気味に推移しています。

以上ご説明した運転資金の改善傾向、保有株式売却加速の進捗を踏まえ、年間のフリー・キャッシュ・フローの見通しを+0から+1,000億円に上方修正しています。



スライド9ページは、セグメント別の受注状況です。

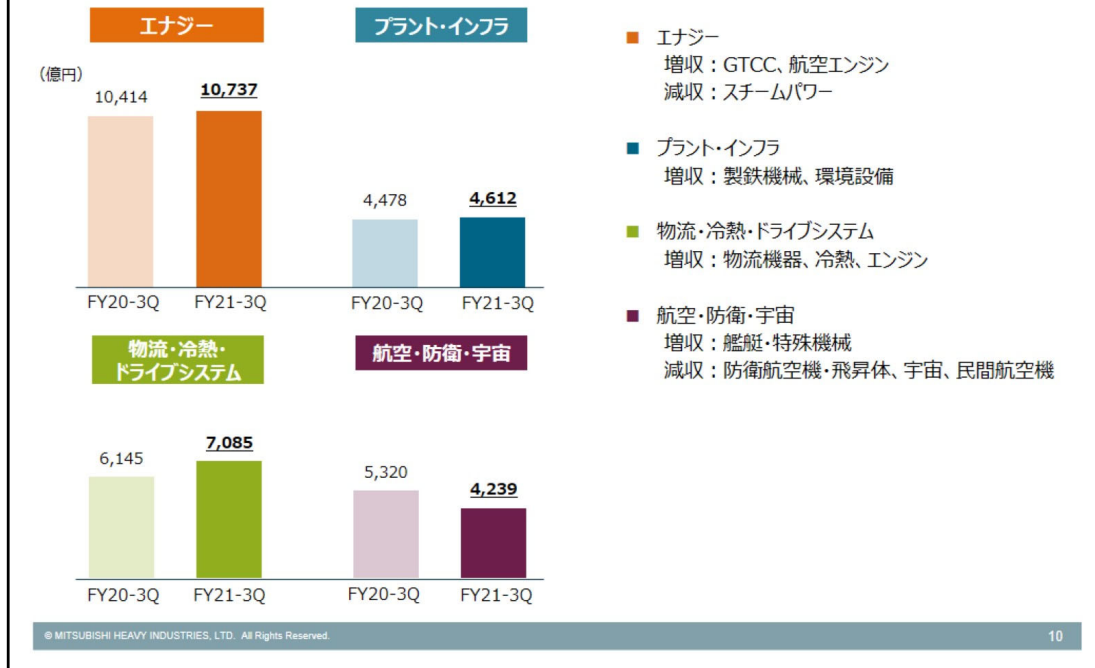
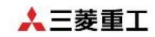
当期の受注高は、プラント・インフラセグメントと、物流・冷熱・ドライブシステムセグメントで前年同期を大きく上回りました。

プラント・インフラセグメントでは、製鉄機械や機械システムが増加しています。

物流・冷熱・ドライブシステムセグメントでは、物流機器や冷熱、エンジンが増加の主要因です。これら3製品では、コロナ前の2019年度第3四半期の受注も上回っています。

一方、ターボチャージャーやカーエアコンといった自動車関連製品は、前年同期対比で増加はしているものの、伸びが鈍っている状況です。

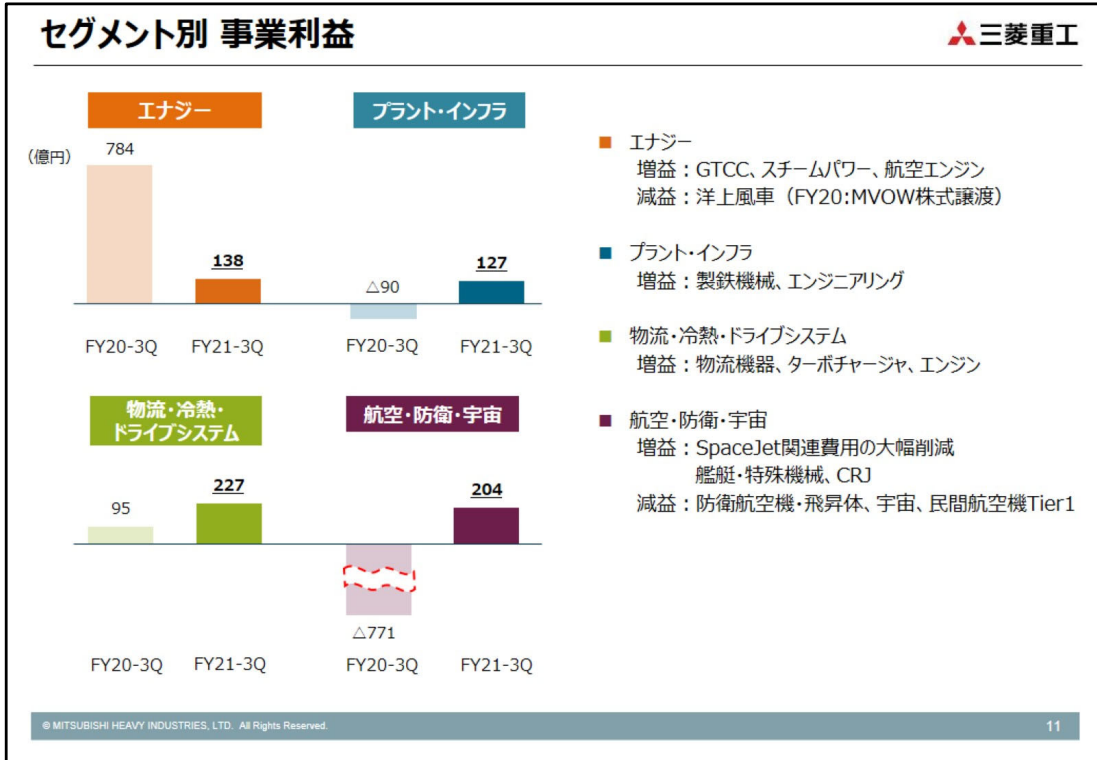
セグメント別 売上収益



スライド10ページは、売上収益の状況です。

航空・防衛・宇宙セグメントが民間航空機Tier1で出荷機数が減少していることに加え、防衛航空機・飛昇体で前年同期に売上が大きかったことの反動などから減収となりました。

他の各セグメントは、前年同期におけるコロナ影響による落ち込みからの回復が見られ、増収となっています。



スライド11ページは、事業利益のセグメント別内訳です。
概要で申し上げましたとおり、全事業セグメントで黒字となっています。

エネルギーセグメントの利益が減少した形となっていますが、前年同期においてはMHI Vestas Offshore Windの合弁持分を売却した際の譲渡益（831億円）が含まれているため、この譲渡益を除いた前年同期の事業利益（△47億円）と比較すると、実質的には増益基調となります。

プラント・インフラセグメントは、製鉄機械の売上増、および工作機械事業の売却等の構造改革等が増益の理由です。

中量産品事業はコロナ影響からの回復が進んだことから増収効果が大きく、半導体不足や材料費、物流費の高騰による影響があったものの、増益となっています。

2021年度第3四半期決算実績 セグメント別内訳



(億円)

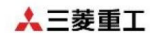
	受注高			売上収益			事業利益		
	FY20 3Q	FY21 3Q	増減	FY20 3Q	FY21 3Q	増減	FY20 3Q	FY21 3Q	増減
エンジン	8,999	8,796	△203	10,414	10,737	+322	784	138	△645
プラント・インフラ	3,957	6,391	+2,433	4,478	4,612	+133	△90	127	+217
物流・冷熱・ ドライブシステム	6,237	7,208	+970	6,145	7,085	+939	95	227	+132
航空・防衛・宇宙	3,417	2,798	△618	5,320	4,239	△1,081	△771	204	+976
その他	△251	△271	△19	△325	△220	+105	220	110	△109
合計	22,359	24,923	+2,563	26,033	26,453	+419	237	808	+571

© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

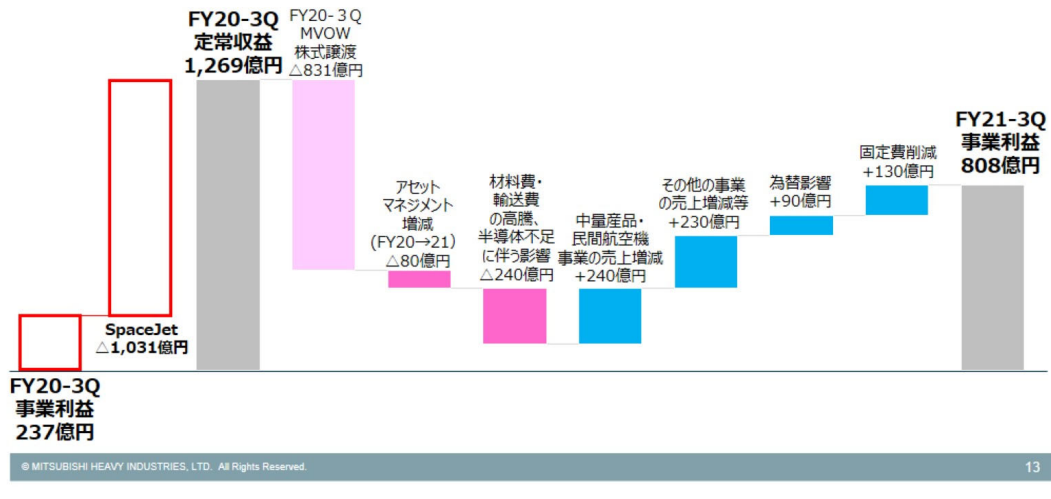
12

スライド12ページは、セグメント別の受注売上利益を一表にまとめたものです。なお、セグメントごとの状況については、補足資料としてスライド20ページ以降に添付しています。

事業利益増減分析



- 材料費・輸送費の高騰や半導体不足に伴う減益影響は継続しているものの、中量製品と航空エンジンはコロナ影響から回復基調
- 受注品事業は構造改革の進捗により採算が改善
- 三菱パワー統合などの施策により、固定費削減は順調に進捗



スライド13ページでは、前年同期対比での事業利益の増減要因について説明します。

一番左端の棒グラフ、2020年度第3四半期の事業利益は237億円。スペースジェット関連損失を除外すると、1,269億円の利益でした。2021年度第3四半期の事業利益は、右端の棒グラフ、808億円ですが、その差異の要因をピンク色及び青色の棒グラフで示しています。

薄いピンク色の棒グラフ（△831億円）が、昨年度のMVOWの株式の譲渡益に相当するものです。1,269億円からこの△831億円を控除した438億円が、実質的な前年同期の事業利益額であり、この利益額と当期事業利益の増減要因を濃いピンク色及び青色の棒グラフで示しています。

アセットマネジメント増減（△80億円）は、今年度と昨年度の土地等の売却益の差額を示しています。2020年度は第2四半期に名古屋の岩塚工場跡地の土地売却がありました。その売却益（約300億円）等と、2021年10月に開示した、平間グラウンド売却をはじめとした複数物件の売却益の差額が80億円となりました。

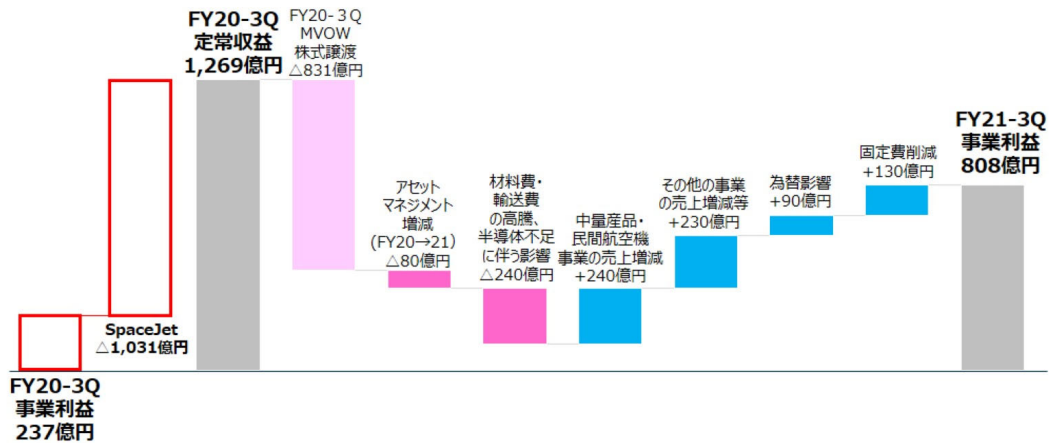
材料費・輸送の高騰、半導体不足による影響（△240億円）は、今年度における材料費や輸送費の高騰、また半導体不足等に起因する減産で生じた減益影響を示しています。この影響は、主に中量製品事業の物流・冷熱・ドライブシステムドメインで起きています。

（次ページ続く）

事業利益増減分析



- 材料費・輸送費の高騰や半導体不足に伴う減益影響は継続しているものの、中量製品と航空エンジンはコロナ影響から回復基調
- 受注品事業は構造改革の進捗により採算が改善
- 三菱パワー統合などの施策により、固定費削減は順調に進捗



© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

13

(前ページ続き)

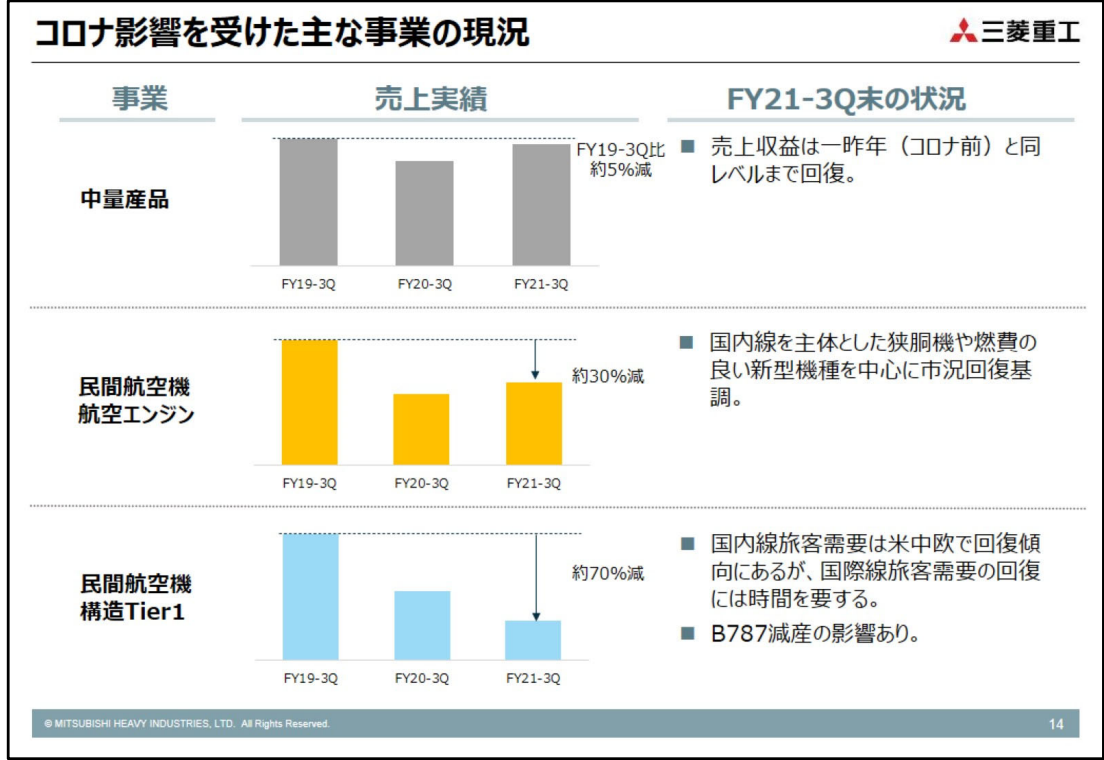
ピンク色の棒グラフの右隣、青色の棒グラフ (+240億円) は、中量製品および民間航空機関連事業における売上増減に付随する増益を示しています。主として、コロナからの回復が現れているものをご理解ください。

補足しますと、中量製品、民間航空機関連の事業ごとのコロナ影響についてはスライド15ページで示しておりますが、前年同期対比では、中量製品と航空エンジンは増収となっている一方、民間航空機Tier1事業は減収となっています。そのため、前者 (中量製品・航空エンジン) については増益要因、後者 (民間航空機Tier1) については減益要因となっており、この合算値を+240億円としています。

その右隣の青色の棒グラフ (+230億円) は、中量製品・民間航空機関連事業以外の受注品事業における売上変動、採算改善などの影響を示しています。

為替影響 (+90億円) は、前年同期と比較して、為替レートがドル、ユーロとも円安傾向で推移していることの影響です。

固定費削減効果 (+130億円) には、民間航空機Tier1事業の固定費削減、三菱パワーの統合効果、また工作機械や艦艇事業等のM&Aに伴う変動を含んでいます。



スライド14ページでは、コロナの影響が直接的に大きく表れている、中量産品事業と民間航空機関連事業の状況を簡潔にまとめています。

中量産品と航空エンジンの売上収益は、おおむね期初想定どおりの回復傾向にあります。中量産品の中でも、自動車関連製品とそれ以外の製品との間で回復ペースに差が現れています。

また、民間航空機Tier1事業の収益は、コロナ前から大きく落ち込んだ前年同期をさらに下回る水準となりました。

機体OEMでの生産調整が長引いており、当社の主力生産機種であるボーイング787の出荷機数は、2020年度第3四半期累計（70機）に対して、今年度は第3四半期累計23機と大きく減少しました。

年度末の合計出荷機数に関しても、前年度対比、そして期初の見通し対比で大きく下回ることになるものと思われます。

2021年度第3四半期決算の総括



■ 受注

民間航空機等で市況の厳しさは残るものの、製鉄機械・中量産品事業（物流・冷熱・ドライブシステム）を中心に回復基調。

■ 売上収益、利益

- ・ 2021事業計画で掲げた各種施策は順調に進捗。
- ・ 中量産品や航空エンジンのコロナ影響からの回復、受注品事業の構造改革推進、組織再編・業務改善等による固定費削減、事業ポートフォリオの組み替え効果などにより、3Q業績は前年同期比で増収・増益。
- ・ 4Qの売上進捗予想等を踏まえ、通期業績見通し達成を見込む。

■ キャッシュ・フロー

- ・ アセットマネジメント（不動産及び株式の売却）を前倒しで進め、成長領域とカーボンニュートラルへの投資資金創出。
- ・ 営業/投資キャッシュ・フローともに順調に推移していることを踏まえ、フリー・キャッシュ・フローを前回公表値の通期見通し（+0）から、+1,000億円上方修正。

© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

15

スライド15ページでは、今期決算の総括を記載しています。

第2四半期決算発表からの推移としては、一部事業でマイナス要因、リスク要因が顕在化したものもありますが、改善傾向にある事業もあり、全体としては年度見通しの達成に向け進捗していると評価しています。

Ⅱ. 2021年度業績見通し

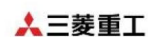
本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、また、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。

実際の業績は、様々な重要な要素により、この業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おください。

実際の業績に影響を与える要素には、当社グループの事業領域をとりまく経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

2021年度業績見通し サマリー



前回公表値 (2021年10月29日) からフリーCF見通しを上方修正

(億円)

	2020年度実績		2021年度見通し		対前年度増減	
	(利益率)		(利益率)	今回見通し	前回公表値	(増減率)
受注高		33,363		36,000	36,000	+2,637 (+7.9%)
売上収益		36,999		37,500	37,500	+501 (+1.4%)
事業利益	(1.5%)	540	(4.3%)	1,600	1,600	+1,060 (+195.8%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益	(1.1%)	406	(2.7%)	1,000	1,000	+594 (+146.1%)
ROE		3.1%		7.1%	7.1%	+4.0pt -
EBITDA	(5.2%)	1,933	(7.7%)	2,900	2,900	+967 (+50.0%)
フリーCF		△2,771		1,000	0	+3,771 -
配当		75円 (中間0円/期末75円)		90円 (中間45円/期末45円)	90円	【前提為替レート】 【未確定外貨】 1ドル = 110 円 24億ドル 1ユーロ = 130 円 3億ユーロ

© MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

17

スライド17ページから18ページでは、2021年度の業績見通しを記載しています。

受注、売上、利益の項目は、従前の予想を据え置いています。フリー・キャッシュ・フローについては、現状の進捗ならびに今後の予想を踏まえ、+1,000億円に上方修正いたします。

以上で、2021年度第3四半期決算の説明を終了します。

2021年度業績見通し セグメント別内訳



前回公表値 (2021年10月29日) から変更なし

(億円)

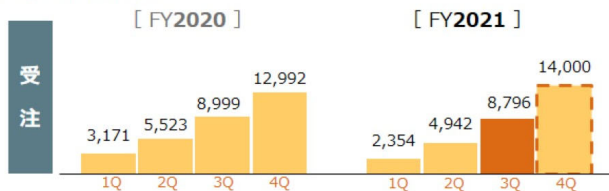
	受注高			売上収益			事業利益		
	FY20 実績	'21年度 見通し	対前年度 増減	FY20 実績	'21年度 見通し	対前年度 増減	FY20 実績	'21年度 見通し	対前年度 増減
エナジー	12,992	14,000	+1,008	15,460	16,000	+540	1,276	1,000	△276
プラント・インフラ	5,752	7,000	+1,248	6,372	6,500	+128	△102	200	+302
物流・冷熱・ ドライブシステム	8,680	9,500	+820	8,603	9,500	+897	156	300	+144
航空・防衛・宇宙	6,262	6,000	△262	7,021	6,000	△1,021	△948	200	+1,148
その他	△324	△500	△176	△457	△500	△43	158	△100	△258
合計	33,363	36,000	+2,637	36,999	37,500	+501	540	1,600	+1,060

Ⅲ. 補足資料

補足資料 第3四半期決算実績〈エナジー〉

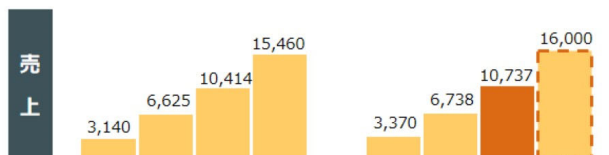


(億円・各期の数値は累計)



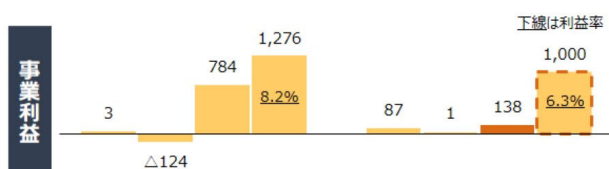
(主な事業の受注)

	FY20-3Q	FY21-3Q
GTCC	3,796	3,411
スチームパワー	1,635	2,532
航空エンジン	382	511
原子力	1,684	1,372



(主な事業の売上)

	FY20-3Q	FY21-3Q
GTCC	3,488	4,149
スチームパワー	3,636	3,481
航空エンジン	413	481
原子力	1,589	1,411

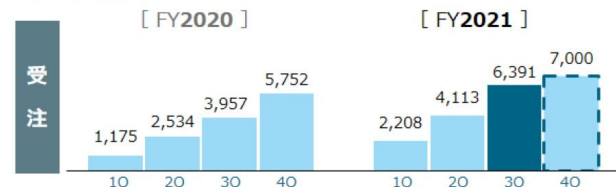


- スチームパワーの受注は、バイオマス発電所新設案件等により、前年同期比増加。
- 航空エンジンの受注は復調基調。
- セグメント全体の事業利益は、IGCC（勿来、広野）の不適合発生などにより低調。
- 火力のアフターサービスや原子力を中心に、年度末にかけて売上が集中する計画。

補足資料 第3四半期決算実績〈プラント・インフラ〉

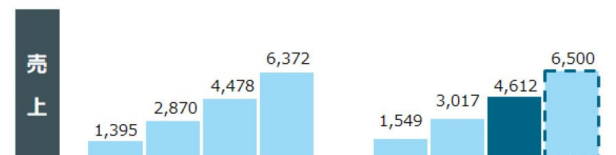


(億円・各期の数値は累計)



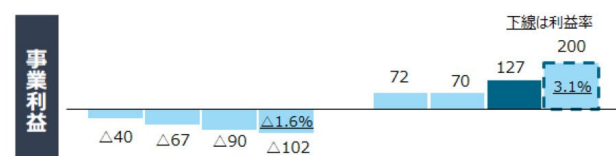
(主な事業の受注)

	FY20-3Q	FY21-3Q
エンジニアリング	1,034	826
製鉄機械	1,000	3,155
機械システム	998	1,146



(主な事業の売上)

	FY20-3Q	FY21-3Q
エンジニアリング	1,118	1,017
製鉄機械	1,457	1,641
機械システム	934	970

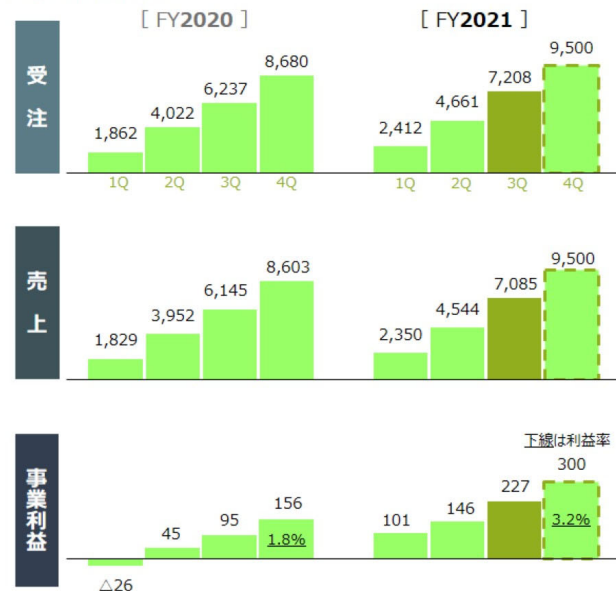


- 製鉄機械の受注は、世界的なコロナ影響からの回復に伴う鉄鋼需要増大を背景に好調。脱炭素・水素活用に関する新規の引き合いも増加。
- 海外の一部工事の追加費用や拠点統廃合に伴う損失はあるものの、構造改革は順調に進捗。

補足資料 第3四半期決算実績〈物流・冷熱・ドライブシステム〉



(億円・各期の数値は累計)



(主な事業の受注)

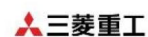
	FY20-3Q	FY21-3Q
物流機器	2,834	3,366
エンジン・ターボチャージャ	1,693	1,789
冷熱・カーエアコン	1,749	2,114

(主な事業の売上)

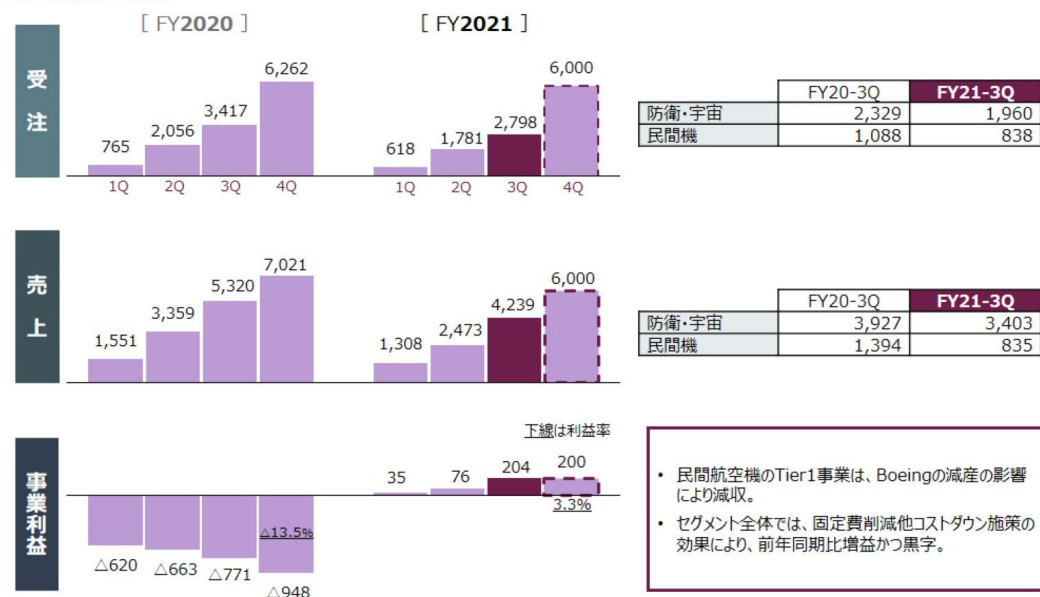
	FY20-3Q	FY21-3Q
物流機器	2,835	3,366
エンジン・ターボチャージャ	1,650	1,752
冷熱・カーエアコン	1,704	2,026

- 物流機器・冷熱・エンジンの受注・売上は好調であり、FY19を上回るペースで推移。
- 自動車メーカーの生産調整や半導体不足の影響を受け、ターボチャージャ・カーエアコンの受注・売上は回復ペース伸び悩み。
- 材料費・輸送費の高騰や半導体不足の減益影響は継続しているものの、売価アップ等でカバー。

補足資料 第3四半期決算実績〈航空・防衛・宇宙〉



(億円・各期の数値は累計)



ガスタービン 受注台数・契約残台数

大型	FY20 3Q	FY20 通期	FY21 3Q
米州	4	4	-
アジア	2	4	3
EMEA	3	3	-
その他	-	2	6
合計	9	13	9
契約残台数	46	48	41

中小型	FY20 3Q	FY20 通期	FY21 3Q
米州	-	6	-
アジア	-	-	1
EMEA	-	-	-
その他	-	-	-
合計	0	6	1
契約残台数	8	5	6

民間航空機 出荷機数

777	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
FY2020	3	10	7	4	24
FY2021	5	4	6		

777X	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
FY2020	3	3	0	1	7
FY2021	2	1	1		

787	1Q	2Q	3Q	4Q	合計
FY2020	18	32	20	14	84
FY2021	14	5	4		

研究開発費、減価償却費、設備投資

	FY20-3Q	FY21-3Q	(単位：億円) FY21見通し
研究開発費	846	755	1,300
減価償却費	1,055	984	1,300
設備投資	861	844	1,200

販売費及び一般管理費

	FY20-3Q	FY21-3Q	(単位：億円)
販管費	3,956	4,048	

為替レート(売上計上平均レート)

	FY20-3Q	FY21-3Q
USドル(円/USドル)	106.6	110.5
ユーロ(円/ユーロ)	121.8	130.0

MOVE THE WORLD FORWARD▶

**MITSUBISHI
HEAVY
INDUSTRIES
GROUP**